

株式会社八幡平スマートファーム

2024(令和6)年10月現在

◆八幡平スマートファームとは

冬場はマイナス 20℃にもなる岩手県八幡平市で、最先端のIoT技術と独自の栽培システムを取り入れた「八幡平スマートファーム産温泉バジル」の通年栽培・出荷を実施。未活用農地の問題解決と地域活性化、環境に配慮した農業実現のため、日本初の商用稼働した松川地熱発電所から供給される熱水を暖房に活用した熱水ハウスを稼働中。国のモデル事業としても注目されております。



◆学びと体験のおすすめポイント

- ★普段利用するエネルギーや再生可能エネルギーの有効活用を考えるきっかけになる。
- ★普段口にする食べ物の育ち方、食卓に届くまでのプロセスに関心を持てる。
- ★未活用の農地やビニールハウスの再生など、地域資源の利活用を考える機会になる。

◆受入概要

実施時期	通年
実施時間	要相談
所要時間	質疑応答含め、約60分～90分
料 金 (税別)	・ 地方自治体・一般企業：1団体1万円 + 入場料700円/人 ・ 農業団体・学生団体：1団体5千円 + 入場料500円/人 ・ 収穫体験：1,000円/人
備 考	その他ご要望については、ご相談下さい。(別途御見積を致します)

◆問合せ先

株式会社 MOVIMAS (IoT技術と地域資源融合型スマートファーム 視察窓口)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号 鉄鋼ビルディング4階
TEL: 050-3613-8700
HP: <https://movimas.jp>



◆体験できるSDGs



IoT や再生可能エネルギーを活用し、環境に配慮した最新の農業を体験することで、持続可能な食糧生産システムを学ぶことができます。

◆歴史的背景

株式会社八幡平スマートファームは、株式会社 MOVIMAS と岩手県八幡平市の IoT 農業の振興を目的とした包括連携協定締結を経て、農地法に定める農地所有適格法人として設立。

高石野施設野菜生産組合が所有する農地 2ha は、八幡平市松尾寄木の地権者が 1966 年の日本初の商業用地熱発電所の運転開始と、国の観光や農業振興施策をもとにした支援で「施設野菜団地」の整備を進め、1984 年には熱水ハウスの手法で、岩手山の裾野に位置する十和田八幡平国立公園の麓で花卉栽培を中心に取り組み、皇族の方々も多数視察に訪れる栽培施設として発展してきました。

現在、それらの熱水ハウスは、高齢化による離農や施設の老朽化の問題もあり、未活用になっている施設が多いことから、IoT 次世代施設園芸への転換拡大を図ることで、持続かつ発展的に農業経営ができる人材を都心から地方へ呼び込み、さらには新規就農者に向けた IoT 技術の習得支援の場としても機能するように構築したいと考えています。

年次	主な出来事
2016（平成 28）年	12 月に株式会社 MOVIMAS 代表取締役児玉則浩が八幡平市の視察で初めて、田村正彦初代市長を訪問し、地域資源活用まちづくりビジョンに意気投合。
2017（平成 29）年	8 月にバジル試験栽培を開始。9 月に市とプロジェクト基本合意書を締結し、10 月には岩手県で初となる八幡平市産温泉バジルの初出荷式を実施。
2018（平成 30）年	実証実験は当初 2 棟でスタートし、2018 年 3 月には 5 棟に拡大。
2019（令和元）年	1 月に事業拡大・推進を目指して株式会社八幡平スマートファーム（農地法に定める農地所有適格法人代表取締役 児玉則浩）を設立。IoT 技術と地域資源活用の循環型社会モデルを推進するハウス 12 棟を増設し、現在に至る。
2023（令和 4）年	3 月に内閣官房のデジタル田園都市国家構想実現会議において、地域資源とデジタル技術を活用し、地域活性化を図ることが期待される優良事例として紹介。2021 年度に農林水産省で策定された「みどりの食料システム戦略」に先行して取り組んでいる事例として掲載。

プロジェクトの特徴

地域の宝である「自然エネルギー」と「最新の栽培技術や IoT 制御システム」を融合させ、新たな農業モデルの確立によって、地域再生と日本の農業振興に挑み貢献しています。

- 1 夏場以外不可であったバジル栽培を、地域資源の温泉利用で周年栽培が可能。脱炭素社会の実現。
- 2 IoT クラウドシステムで、一定品質の出荷が可能。年齢に関係なく、誰でもできる農業を推進。



IoT 技術と地域資源活用モデル推進
八幡平スマートファーム収穫体験



八幡平スマートファーム産
温泉バジル入りソーセージ